

上人に中書され、今不敬阿弥、方去れ、殊更艷色
此時、佛法王法も年々あし、此度、佛向寺悉く
はぶれ、氣の末世に為に、日頃西僧が覺の通る妻に
書、認り學び、進し申、願しと宣ひて、則ち石寺へ
西僧を去り、如斯書記し、已

天正十二年乙酉三月二日

專阿彌判

守阿彌判

山寺 寶珠山之石寺

一 此度天童落城の戦り、討り、若都合九る、手合人、手
合八百人也、氏家尾張守より、我先公、注進あり、此を
斜あり、其悦び、先新關、因幡守、山崎常陸守、西將
に、兵卒二百余騎、お誂、糸城を守り、と、山崎、陣
有り、多し、又天童、西楯時宗、佛向寺、頼久公、代々
此牌所、と、言、千石の寺、領附、置る所、を、一圓、取ら、け、又
山崎寶幢寺、附られ、多し、我先公、宣ひ、方、い、か、り、海内
に、御、重し、地、荒、荒、荒、天童、城、跡、に、堂、を、建立し、安
置、し、なり、當地の守護神、と、山、崇め、まゐ、んと、宣ひ、られ、り
法、有り、か、り、中、説、か、り、思、召、の、山、公、應、が、れ、此、度、の、御